

仕組みを作る楽しさと難しさ

西田 圭介 BizMobile (株)

1976年生。平成14年度未踏ユーススーパークリエイター。フリーエンジニアとして独立後、主にベンチャービジネスの立ち上げに従事。2011年4月からBizMobile(株) CTO。著書に「Googleを支える技術」。knishida@bizmobile.co.jp

平成14年度の未踏ユース第1期生として採択いただき、オープンソースCOBOLコンパイラ(GCC COBOL)の開発に取り組みました。その後、残念ながらGCC本体に取り込まれるまではいかずに、自分は開発から降りてしまいましたが、単体のコンパイラ(C言語トランスレータ)としてプロジェクトは継続し、実用に耐え得るオープンソースCOBOLとして、今も世界各地で使われているようです。商用サポートを提供する企業もいくつか出てきました。いつかまた暇ができたときには開発を再開できたらと思っています。

今は時代の流れに乗って、「クラウド」や「モバイル」関連の技術に取り組んでいます。現在のテーマは「モバイルデバイス管理(MDM)」。企業が導入する数百~数千台のモバイルデバイスを効率的に管理するための仕組みを開発し、これをクラウドサービス(SaaS)として提供しています(図-1)。

デバイスをサーバに登録すると、Apple社やGoogle社が運営するプッシュサービスを通じて、それらのデバイスをリモートコントロールできるようになります。基本的なデバイス情報の収集から、パスワードポリシーの適用、リモートロック・ワイプ、メールやVPNのアカウント設定、アプリケーションのインストールや監視などが行われます。

従来であれば、こうしたシステムはPCインストール型のパッケージにするか、アプライアンス化して専用ハードを設置するところでしたが、時代も変わり、今はもうクラウド型のサービスとして構築する以外には考えられなくなってきました。

サーバの調達はもはやAPIを呼び出すだけの作業ですし、サーバの監視もクラウドサービスに任せられます。有人での24時間対応が必要なら、それを提供してくれる会社もあります。ソフトウェアを開発するだけでなく、

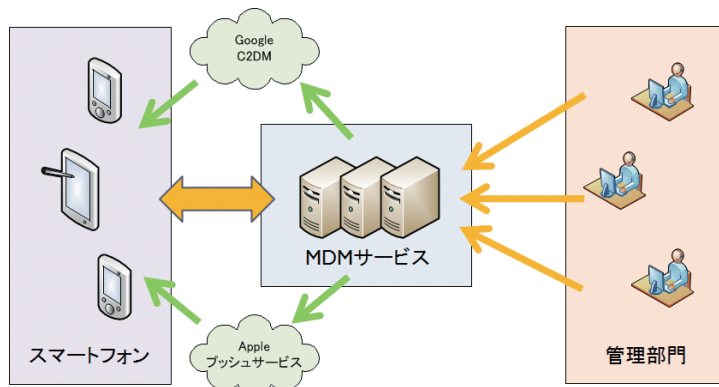


図-1

自力でサービス提供まで行えるようになったことで、トラブル対応に要する時間も減り、開発もずいぶん楽になりました。

ここ数年で、国内企業もずいぶんクラウドサービスへの抵抗がなくなってきているようです。まだ大手クラウド事業者でなければ信用されないところもあるので、自分たちは事業者向けにシステム提供の形が中心となっていますが、少なくとも「開発」「運用」「技術サポート」までは自社で回していきたいところです。

サポートをどう効率化するかが次の課題です。クラウドで開発効率は改善されても、人と人との関係まではなかなか改善されません。効率化ばかり求めずに、信頼関係を大事にすることも忘れてはなりません。

いろいろ悩むことはありつつも、新しく仕組みを作り上げていくというのは楽しいものです。テクノロジーだけでなく、ビジネスとしての仕組みを作っていくことに今後もチャレンジしていきたいです。

関連 URL

OpenCOBOL : <http://www.opencobol.org/>

BizMobile : <http://bizmobile.co.jp/>

(2011年9月15日受付)